

四人の男たちが、舞踊家と響き合う印象派の世界
音楽と舞踊の小品集 水(第一部 演奏) 空気(第二部 舞踊) 光(第三部 演奏)
 横浜美術館企画展「モネ それからの 100 年」によせて



福間洸太郎/ピアノ ©Masaaki Hiraga



崎谷直人/ヴァイオリン



門脇大樹/チェロ



齊藤一也/ピアノ



左から、

中村恩恵◎大河内禎、首藤康之◎阿部稔哉、折原美樹◎John Deane、米沢唯/新国立劇場バレエ団、中島瑞生/新国立劇場バレエ団、渡邊拓朗/新国立劇場バレエ団

今夏、横浜美術館で印象派を代表する画家、クロード・モネの普遍的な魅力に迫った展覧会が開催されます。この展覧会に寄せて、男性4人の若き精鋭がピアノ、ヴァイオリン、チェロの小品をプログラムに据え、中村恩恵(※)に委嘱する舞踊作品とも共演します。

三部構成のコンサートはモネの作品世界と呼応しており、第一部は‘水’、第二部は‘空気’、第三部は‘光’というテーマを設けています。そして第二部においては、聴き慣れた楽曲を、舞踊家の身体表現を通して鑑賞していただきます。中村恩恵の委嘱作品とともに注目していただきたいのは、コダーイのピアノ小品を奏でるなかで上演されるマーサ・グラハムの名作‘LAMENTATION’ (ラメンテーション)です。モダン・ダンスのパイオニアとして知られるマーサ・グラハムのこの作品は、チューブ型の布を纏いあたかもダンサー自身の皮膚のように苦悩や嘆きが表現される圧倒的な作品です。この作品を上演するためだけに、マーサ・グラハム舞踊団のプリンシパルダンサーが来日いたします。

この希少価値の高いステージを、多くの皆様にご覧いただきたく、マチネとソワレの2回公演をご用意し、ここに紹介申し上げます。

(※) 中村恩恵氏は舞踊家・振付家として、紫綬褒章を今年受章いたしました。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が主催した「東アジア ユース・バレエ・ウィーク横浜」(2014年)や「横浜赤レンガ倉庫ダンス・ワーキング・プログラム」(2015年)、横浜能楽堂とジャパン・ソサエティー(NY)が共同制作した作品「SAYUSA-左右左(さゆうさ)-」(2017年)の出演に続き、横浜で開催される3年に一度のダンス・フェスティバル「Dance Dance Dance@YOKOHAMA 2018」の参加公演となるこのコンサートに出演いたします。



日時:2018年8月30日(木) [マチネ]13:30 開演 [ソワレ]19:00 開演

会場:横浜みなとみらいホール 大ホール

出演:福間洸太郎(ピアノ)、崎谷直人(ヴァイオリン/神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスター)、門脇大樹(チェロ/神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席チェロ奏者)、齊藤一也(ピアノ)

【第2部～空気(舞踊)出演】

中村恩恵、首藤康之、折原美樹(マーサ・グラハム舞踊団)、米沢唯 / 中島瑞生 / 渡邊拓朗(新国立バレエ団)

曲目:【第1部～水(演奏)】 ドビュッシー:喜びの島
ヴァイオリン・ソナタより第1楽章
チェロ・ソナタより第2・3楽章
サン＝サーンス:白鳥
マスネ:タイスの瞑想曲

【第2部～空気(舞踊)】 スクリャービン:12のピアノ練習曲 作品8より第11番
ラヴェル:ツイガース
メシアン:時の終わりのための四重奏曲より第5楽章“イエスの永遠性の賛美”
コダーイ:9つのピアノ小品 作品3より第2番
カタロニア民謡(カザルス編):鳥の歌

【第3部～光(演奏)】 ドビュッシー:月の光
ラヴェル:組曲「マ・メール・ロワ」より第1曲 眠れる森の美女のパヴァーヌ
第3曲 パゴダの女王レドロネット
第5曲 妖精の園
ラヴェル:ピアノ・トリオより第3・4楽章

料金:全席指定 4,000 円 *チケット発売中

主催:横浜みなとみらいホール(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
お問い合わせ:横浜みなとみらいホールチケットセンター Tel045-682-2000



クロード・モネ《睡蓮》(部分) 1906年、油彩、キャンヴァス

81.0×92.0cm 吉野石膏株式会社(山形美術館に寄託)

「モネ それからの100年」横浜美術館
2018年7月14日(土)～9月24日(月・休)
<http://monet2018yokohama.jp/>

◇ご取材・ご掲載・ご来場いただける場合には、下記へご連絡をお願いいたします。

このプレスリリースに関するお問合せ: 横浜みなとみらいホール Tel: 045-682-2020 / Fax: 045-682-2023
総支配人補佐: 小椋錬太郎 広報担当: 鈴木慶子 事業担当: 小野寺正憲